

活動テーマ

長瀨町の観光に関する地域住民と来訪者のイメージギャップの可視化による  
観光資源活用方策の最適化

長瀨町 ものづくり大学大学院 田尻研究室

### 1 活動目的

全国的に有名・人気のある観光地は、来訪者による外部評価と地域住民や町内の観光事業者などの観光を受け入れる側の内部評価がある程度一致しており、その相乗効果により、観光地としてより一層の活気が創出されている。つまり、理想的状態からのギャップを定量的に把握することにより、観光資源活用の最適化が図れると考えられる。そこで当研究室では、長瀨町来訪者に加え、長瀨町住民を対象に観光資源の評価・活用に関する調査を実施し、双方のギャップを把握、長瀨町に点在する観光資源の最適な活用方策を模索することで、長瀨町観光の更なる発展を目指す。

### 2 活動地域の現状

長瀨町は埼玉県北部に位置し、長瀨渓谷による岩畳や渓谷を利用したライン下り・ラフティング・カヤックなど数々の観光資源を保有しており、また地質学発祥の地として、ジオパークに登録されているなど歴史的に見ても埼玉県にとって重要な要素である。長瀨町の入込来訪者数について、長瀨町産業観光課の調べによると、平成13年の215.4万人を基準として年平均2万人程度来訪者が増加しているが、継続的な来訪者数維持には観光資源の有効活用が今後の課題であると言える。

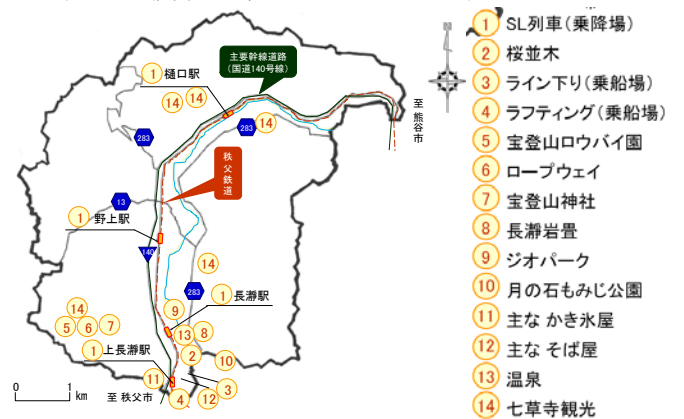


図-1 長瀨町の主要観光資源

### 3 活動内容

#### 3-1 来訪者意識調査の実施

内部評価と外部評価のギャップを分析するために、平成29年度～平成30年度に実施した来訪者対象の意識調査を継続して実施することでデータを蓄積、より正確な来訪者の観光資源評価の分析を行なった。今年度では「夏」「秋」「冬」の各季2日間に渡り調査を実施、季節ごとでの来訪者特性の把握を行なった。



図-2 調査風景(夏)



図-3 調査風景(秋)



図-4 調査風景(冬)

### 3-2 長瀬町住民を対象とした調査結果報告会の実施

今年度では、来訪者を受け入れる側である地域住民に、来訪者との意識ギャップを把握してもらうことによって、観光地としての長瀬町に対する知見を広め、内部における観光業への興味・関心を高めることを目的として、調査結果の報告会を実施した。報告会では、地域住民や観光事業者などの多くの方にお越しいただき、長瀬町の観光の現状についての情報を共有することができた。

### 3-3 観光資源の活用に関するワークショップの実施

昨年度に引き続き、長瀬町住民と来訪者の方々にお集まりいただき、既存観光資源の活用方針を模索することを目的としたワークショップを実施した。今回のワークショップでは、「長瀬町の観光に関する課題」について議論を行なっていた。



図-5 ワークショップ風景【若者+家族グループ】 図-6 ワークショップ風景【ご年配夫婦+若者グループ】

### 3-4 外国人観光客の受け入れ体制の拡大に向けた住民意識調査

今年度では近年増加傾向にある外国人観光客の受け入れに関する意識調査を実施し、長瀬町における外国人観光客の受け入れ体制の拡大に向け分析を行なった。

## 4 成果

### 4-1 四季における観光資源評価の比較

観光資源評価グラフにおいて観光資源への評価のギャップを視覚的に分かりやすくするためにハートマークの満ち欠けによって表現する。完璧なハートマークは長瀬町住民、来訪者ともに評価されているため重点的な観光資源として推進できる。左側だけのハートマークは長瀬町住民からの評価は高いが来訪者からの評価が少ないため、潜在的な観光資源の価値の可能性があると考えられる。右側だけのハートマークは長瀬町住民からの評価は少ないものの来訪者からの評価が高いため、内部評価の見直し・外部へのPRをさらに強化を行うことができる観光資源である。

春の観光資源評価比較について図-7に示す。春の観光資源ではSLパレオエクスプレスの評価が双方から一定の評価があり観光資源として推進していくことができると考えられる。季節の観光資源としてある南北に続く桜並木に関して住民側の評価は高いが、来訪者側の評価が伸びずギャップが生じているため外部へのPRが必要と考えられる。来訪者には該当なしと答えた人が一定数おり、新たな観光資源の発掘が必要と考えられる。

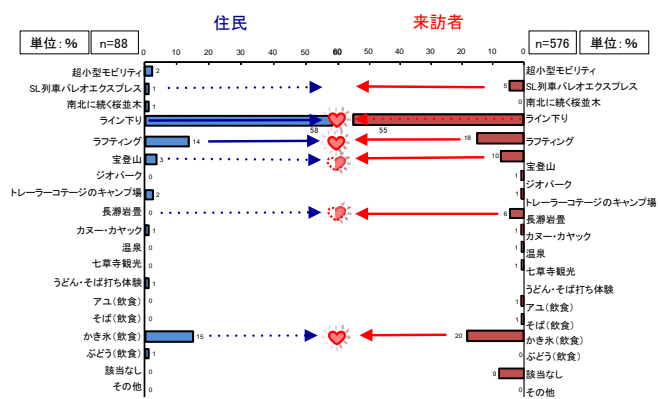


図-7 春の観光資源評価の比較

夏の観光資源評価比較について図-8に示す。夏の観光資源ではライン下りとラフティング、かき氷が双方から一定の評価があり長瀬の夏の主力観光資源として発展していくことができると考えられる。しかし長瀬岩畳、宝登山は住民からの評価が伸びず観光資源としての魅力が住民に伝わっていないのではと推察される。現状長瀬町では1年の中で夏の観光客入込数が最も多いため、住民へ評価の見直しをするとともに新たなPRの手段を考える必要があると考えられる。

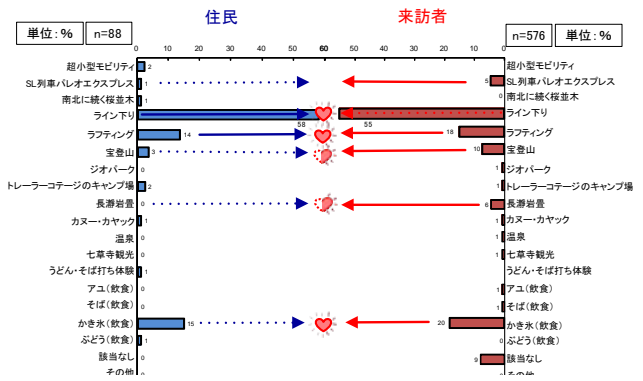


図-8 夏の観光資源評価の比較

秋の観光資源評価比較について図-9に示す。秋の観光資源ではSL列車パレオエクスプレス、ライン下り、宝登山、長瀬岩畳と数多くの観光資源が双方から評価されていることがわかる。しかし月の石もみじ公園と七草寺観光の来訪者側の評価が低くなっており、ギャップが生じていることがわかる。秋の観光資源は住民側、来訪者側ともに多数の種類を評価しているため潜在的な観光資源が眠っている可能性があると考えられる。

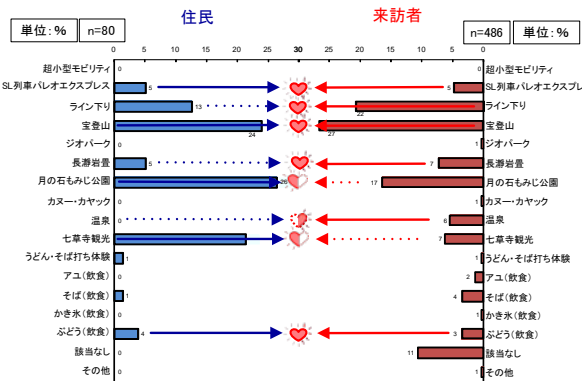


図-9 秋の観光資源評価の比較

えられる。

冬の観光資源評価比較について図-10に示す。冬の観光資源では両者からの評価が同一のものがなく、来訪者側で該当なしと答えた方が多いため新たな観光資源を見つける必要があると考えられる。住民側から宝登山の評価が高いがこれは宝登山蠟梅園の評価が一定数あると考えられ、より一層の来訪者に向けたPRが必要と考えられる。また長瀬町には温泉施設がないが、来訪者側からの温泉の需要がある。これは隣の市町村である皆野町や秩父市の

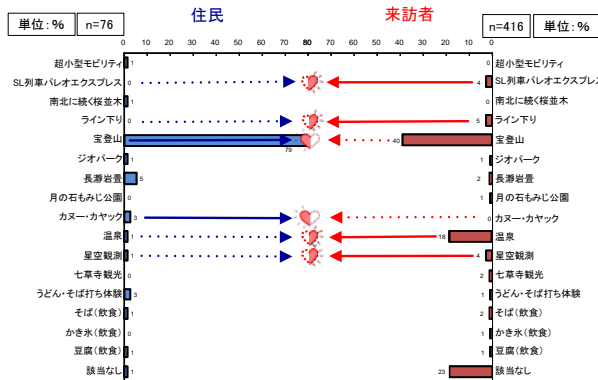


図-10 冬の観光資源評価の比較

の温泉施設と勘違いしているのではないかと考えられるが、新たな観光資源として温泉施設の需要があるのではないかと考えられる。

#### 4-2 観光資源の活用に関するワークショップ

ワークショップでの議論内容の一部を図-11に示す。住民と観光者が同じテーブルに着き観光に関して議論を行なったことによって、長瀨町の観光業の課題が明確化された。特に来訪者はあまり認知されていないマイナー観光資源に興味を示しつつも、交通の不便さや来訪者の主要観光資源への集中による待ち時間の発生によって移動時間、移動範囲が制限

長瀨町 WS		観光資源	観光プラン
長瀨の隠れた魅力の掘り起こしと集客につながる良い使い方について議論しよう			
ライン下りの発着所(有) 不便さ ・交通手段 ・飲食店の行列 子供連れは子供が歩き疲れる ・観光車両が狭くなる ・公共収入、自転車等の移動手段、PR強化 食べるために遊ぶ× ・食べる場所を作る(食べやすい・持ちやすい) 店の回転率も上がる 見る・体験できる 朝アユツリ、ガラス、とんぼのやつ等	駅一ヶ店(2時間) ・自転車利用 ・花見→トシ、ゴミ箱 ・長瀨→モダン PR方法 SNS ・フェイス 家族→手軽な体験 和銅探偵(数箇所)	春 ・桜、鉄道→撮影場所 一回の来訪で様々な飲食 例)そばのテイクアウト 長瀨ならではの(ローカルな)観光案内 レジャー的な施設が多くあると楽しめそう 店内飲食× フードコート的な外での飲食	

図-11 ワークショップ議論内容(一部抜粋)

されてしまい、興味があっても赴くことが困難な状況にあることが判明した。したがって、観光PRの強化のみならず、観光地を巡回するバスのような、町内に点在する観光資源への誘導システムの構築によって、町内観光動線の形成に加え、来訪者の集中による待ち時間の長期化問題を解決できると考えられる。

#### 4-2 外国人観光客の受け入れ体制の把握

長瀨町における現状の外国人観光客の受容意向を把握することを目的とし、「外国人観光客との交流経験」「インバウンド施策の認知度」に着目し、住民を4つのカテゴリに分類した。カテゴリの内訳を図-12に示す。

各カテゴリにおける回答者の交流経験ならびに認知度別に着目したインバウンド受容意向を図-13に示す。外国人観光客の増加に対して、いずれの層も経験・認知度に関わらず6割以上の良い評価とあるが、外国人との交流経験がない層である「B: 認知層」、「D: 未経験・未認知層」では、約

		外国人との交流経験	
		経験がある	経験はない
インバウンドの認知	知っている	<b>A 経験・認知層</b> インバウンドを知っている × 交流経験あり	<b>B 認知層</b> インバウンドを知っている × 交流経験なし
	知らない	<b>C 経験層</b> インバウンドを知らない × 交流経験あり	<b>D 未経験・未認知層</b> インバウンドを知らない × 交流経験なし

図-12 住民のカテゴリ分類

1割の回答者が良くない印象を抱いていることもわかる。次に、将来の外国人観光客との交流意向では、外国人と交流経験のある「A: 経験・認知層」、「C: 経験層」において、5割以上が関わっていきたいと回答している。これは、自身の経験から外国人に好印象を持ち、評価や交流意向に反映されていることがわかる。

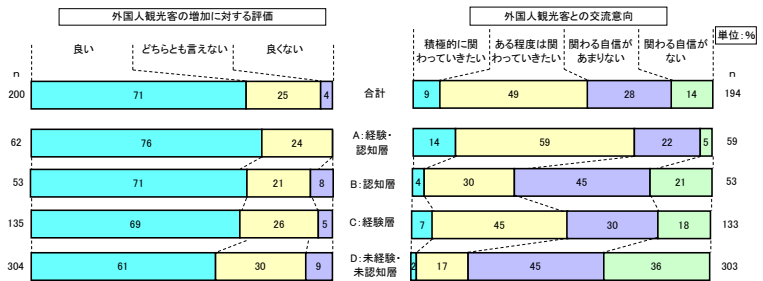


図-13 交流経験・認知別に着目した外国人観光客への評価(左)と将来交流意向(右)

#### 5 課題

今年度の活動では多くの住民、来訪者の方々に協力頂いたことにより長瀨町における観光資源の活用に関して解決の芽を見出すことができた。したがって、次年度以降ではこの住民・来訪者の協力体制を拡大していくことが重要であると考えられる。

#### 6 次年度以降の計画

次年度の計画を図-14に示す。本事業の4年目となる2019年度では例年に引き続き各季節の来訪者意識調査を実施しデータを蓄積、来訪者データの正確性の向上を図る。また、3年間の調査によって把握された観光資源の内外評価ギャップを参考に、観光モデルプランを立案・実施し、その効果を検証することによって、観光資源の最適な活用方策を検討する。そしてこれらの結果を長瀨町観光総合振興基本計画へと反映させ、長瀨町の

観光業の面的な活性化に寄与させていく予定である。



図-14 次年度の活動計画